

# このかレター

2024年3月号（3月9日発行）

<通巻第6号>

編集・発行●「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」運営チーム

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 52号室  
RAIK内 外キ協事務局

電話 (03) 3203-7575 E-mail: nanminkikin@gmail.com

郵便振替 00190-4-119379 口座名称: 外キ協

ホームページ <http://www.gaikikyo.jp>

◆昨年12月、私たちは難民申請者・仮放免者ら163人に、  
支援団体を通して支援金「一人3万円」を渡すことができました。

◆私たちは今月から「第二期支援」を始めました。

## なかまたちの声とわたしの祈りが行動へとつながるとき ～難民・移民なかまのいのちの緊急基金集会報告～

2月18日（日）対面とオンラインとで開催された基金集会。対面とオンラインで開催されました。会場に29名、オンラインで160名以上が集まり、互いの声と祈りを聴き合い、ともに手をつなぐ希望を実感するひとときとなりました。

### ◆基金の活動報告と改定入管法施行の問題

はじめに、河内理恵さん（基金運営チーム）が、2023年7月に開始した基金のこれまでの活動について報告されました。1人3万円の支援金を300人に、1年間で1,000万円を目標に献金を呼びかけ、第1期は8～12月までの5ヶ月間で、61教会・団体と79名の個人から合計5,376,785円の献金が集まりました。支援申請者163名すべてに支援金をお渡しでき、私たちの祈りが実現したことが伝えられました。

山岸素子さん（基金運営チーム/日本カトリック難民移住移動者委員会）からは、難民・移民の当事者たちが置かれている状況や、昨年6月に強行採決・成立された改定入管法の問題点が語られました。「3回目以上の難民申請者などの強制送還が可能になる」「帰国できない事情を抱える外国人が退去命令に従

わない場合に刑事罰の対象となる」など、さまざまな問題を含む改定入管法の施行を前に、いまわたしたちができることとして、幅広いネットワークによる支援連携と交流の場づくり、当事者への個別に丁寧な法的支援、また国際人権基準に沿った入管法の改正に声を上げていくことがあると提案されました。

### ◆なかまたちの声を聴くことから

第2部では、「北関東医療相談会（アミーゴス）」と「仮放免高校生奨学金プロジェクト」から、難民・移民の当事者と支援者にお話しいただきました。

事前インタビューでお話しいただいたAさんは、カメルーンから留学生として来日され、大学で学んだ後、ある学校で英語教師（ALT）として働きました。しかし、派遣会社側の都合で突然その仕事を継続できなくなり、次の仕事がなかなか見つからないうちに、ご自身に病気が発覚したため働くことができなくなり在留資格を失いました。入退院を繰り返している中で、家賃を滞納してしまい、住んでいたアパートを出ざるを得ない状況にもなりましたが、幸い北関東医療相談会と出会い支援につながることができました。日本での暮らしは苦しいけれど、Aさ

んの持病（心臓の病気、糖尿病など）の治療のことや、日本生まれ日本育ちの娘さんのことを考えると、言葉や文化や医療環境も異なるカメルーンに戻って生活することはとても難しいのです。Aさんは、基金につながる人たちが互いに手を繋ぎ、難民・移民のために行動していることに感謝している、これからも活動を続けてほしいと語られました。

続いて、萩原芳子さん（北関東医療相談会）からは、仮放免者や困窮している方々が日々の生活でいかに苦勞されているか、第1期申請での支援金を家賃や生活費の支払いに使う人が多かったことから分かるかと報告されました。北関東医療相談会では、医療支援を一番の使命としながらも、ニーズの多さに応えて家賃支援プログラムを利用して、すでに100人以上に支援が届けられました。しかし、支援を必要とする家庭はとても多く、家賃滞納は絶えません。そのような状況のなか、クリスマス時期に自分たちが自由に使える支援金があったことは、特に子どもがいる家庭でとても喜ばれたそうです。改定入管法の施行を前に、一人ひとりのいのちを大切に感じているなかまたちと連帯できる喜びを伝えてくださいました。

次に「仮放免高校生奨学金プロジェクト」から高校生のHさんとGさん、チューターで大学生のKさんにお話しいただきました。

Hさんは高校2年生で、仮放免高校生奨学金プロジェクトからの奨学金を学校の授業料や制服代、通学の電車代などに充てています。家族もHさんも仮放免中であり住民票もなく、働きたい気持ちがあってもバイトができず、自分が自由にできるお金がありません。これから大学進学にあたって授業料や部活の費用などをどうするのが悩みですが、みなさんの支援によって、生活が少しでも楽になればありがたいと語ってくださいました。

同じく高校2年生のGさんは、いま進路を決める時期で、看護学科に興味をもっています。行きたい大学を調べて家族と相談したとき、「4年制大学は費用的に厳しい。もっと早く就職できてピザがもらえる仕事をした方が」とお父さんに言われ、親に迷惑をかけず就職もできるような進路をと考えていま

す。いまはバイトができないので、親にも周りの人にも頼っている状態で、自分のやりたいことができないことが多いけれど、今後は自分のことは自分で考えて、やりたいことをやれるような生活にしていきたい。そのために、短期大学への進学や貯金すること、みなさんがまた力になってくれたら嬉しいと思いを分かち合ってくださいました。

大学生であるKさんは、チューターとして高校生たちに関わる中で、大学進学のための費用（入学金や授業料）についての悩みや相談をたくさん受けることがあります。こうしたサポートは高校時代だけでは十分ではなく大学進学後も必要である、高校生やその家族たちは社会の一員として暮らしており、仮放免者や難民申請者という以前に、一人の人間でありなからと認識してくれる人がもっと増えてほしいと訴えます。Kさんがチューターを始めるきっかけになったのは、カナダ留学での難民ルーツの友人との出会いです。その友人の姿が原動力となりKさんが行動しチューターとして関わるようになったように、Kさんもまた誰かの原動力になりたい、ひとに対する勇気や優しさをもつ人が増えればもっと行動しやすくなり、行動しようと思う人も増えるはずだと力強く語ってくださいました。

最後に、高谷幸さん（仮放免高校生プロジェクト）から、支援者として関わる中で見えてくる高校生たちの置かれている状況や、プロジェクトの取り組みについてお話しいただきました。このプロジェクトは、2023年1月から「反貧困ネットワーク」と「移住者と連帯する全国ネットワーク・貧困対策プロジェクト」が共同で運営を開始し、現在27人の高校生を支援しています。仮放免家庭で生きる子どもたちは、義務教育の間は就学援助を受けられますが、高校無償化の対象外とされているため高校進学後は一切の支援がありません。この無償化からの排除は、子どもたちの進学や日常生活や将来に大きな影響を与えており、高校進学を諦めたり中退せざるを得なかったり、交通費がなく往復3時間自転車で通学したり、さまざまな場面で多くの子どもたちが、諦めたり我慢したりする状況に置かれています。社会の中で子どもたちが自らの存在を否定

される経験を数多くしている中、「私たちは見捨てない／忘れていない」という思いを込めて、一人でも対象者がいるうちはこのプロジェクトを続けていく、これからもみなさんと一緒に活動を続けていきたいと語られました。

#### ◆わたしにできること、ひとりひとりの思いを行動に

第3部では、基金運営チームの岡田薫さん（日本福音ルーテル帯広教会）と、献金者の古田真帆さん（日本バプテスト連盟目白ヶ丘キリスト教会）に、基金に関わるきっかけや、活動に参加する中で感じていることなどをお話いただきました。

岡田さんは、ご自身の親しい友だちからの「私の友人や家族のために薫さんもぜひ祈ってほしい」と言われたのをきっかけに、アトゥトゥミャンマーの「ミャンマーを覚える祈り会」（毎週金曜日夜9時～オンラインで開催）に参加するようになり、そこでこの基金のことを知りました。2021年2月1日の国軍によるクーデターでたくさんの人たちが傷つけられている現実を直接聞くうちに、それまで遠い国だと思っていたミャンマーや、友だちの友だちやその家族のことを、とても身近に感じるようになりました。その1ヶ月後、名古屋入管でウィシュマ・サンダマリさんの悲しい事件が起きました。日本社会がいかに壊れているのかと怒りが湧くと同時に、自分が教会の説教で「隣人」について語る時、ウィシュマさんのように日本で困窮のただ中にある外国人の方々のことを考えていたのだろうか、自分の無関心に対しても悔しさを感じました。二度と同じことで命を奪わせたくない奪いたくない、いま自分にできることを悩みながら実践し、じわじわと仲間を増やしていきたい、そのために一人でも多くの人に伝えていきたいと思いますと呼びかけられました。

古田さんも、「ミャンマーを覚える祈り会」で基金のことを知ったお一人です。高校生のときにシリア難民について聞いたり、大学生でオーストラリア留学をしたときの外国人として生活する大変さを経験したりする中で、いま自分は献金を送ることができる立場にいること、人に支援する恵みが与えられているのだと感じ、ちょうど社会人3年目になったタ

イミングでもあったので、いま自分にできることのひとつとして献金しました。古田さんは献金や募金をするときに、コリントの信徒への手紙二8章12～15節を思い出します。この社会は助け助けられるようにできている、いまは時間という形ではサポートできないが献金という形で関わることができる、だからいま私にできることを続けていきたい、と語られました。

お二人のお話を通じて、いろんな人たちがそれぞれの思いや祈りの中で基金につながり、さまざまなカタチや方法でこの活動を支え続けてくださっていることを実感することができました。

集会の最後は、参加者一人ひとりが自分にできるアクションは何かを考えました。「人に伝える」「祈り、献金、集会などできることを長く続ける」「難民の方たちと一緒にできることを考えつなげていく」など、それぞれの思いを言葉にして分かち合いました。また、2月から始まったアーメンアクション（ラーメンなど麺類を食べるとき、難民・移民の隣人のことを思って1杯につき1コイン500円を基金に献金しようというプロジェクト）や小物づくりを通して基金のことを知ってもらうなど、楽しく活動を続けるアイデアも紹介されました。

その後、マキンサンサンアウンさん（アトゥトゥミャンマー）がビルマ語で、今給黎眞弓さん（いまぎれ・まゆみ／基金運営チーム）が日本語で祈ってください、心を合わせました。また、田村義明さんのギター伴奏で『ぼくたちがいのちについて』（作詞・作曲：田村義明）をともに歌い、感謝をもって会を閉じました。

参加したなかまたち一人ひとりの声を聞き合い、思いを分かち合い、祈りと歌声を合わせる中で、心の奥の方から元気が湧き上がってくるような素晴らしい時間を過ごすことができました。

最後に、大切な思いをお話くださったみなさま、ご参加くださったみなさま、会場を快く提供してくださった目白ヶ丘キリスト教会のみなさまに、心より感謝申し上げます。引き続き、わたしたちにできることを諦めずに取り組みでいきましょう。

連帯に心から感謝！ ●森小百合(基金運営チーム)

# 第1～2期 難民いのちの緊急基金 収支中間報告

(2023年8月6日～2024年2月29日)

＜収入の部＞			＜支出の部＞		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
献金	7,682,602	教会・団体・個人	第一期支援金	4,890,000	@30,000×163人
			通信費	34,990	送料、振込手数料ほか
			事務費	84,239	チラシ印刷代ほか
			人件費	228,750	8月～2024年2月
			2・18集会経費	27,530	謝礼、会場費ほか
合計	7,682,602		合計	5,265,509	

**収支残高:2,417,153円** 第2期支援を実施するには、あと180万円が必要です。

## 「難民いのちの緊急基金」に献金を送ってくださった教会・個人

(2023年8月6日～2024年2月29日)

外キ協/幼きイエス会(ニコラ・バレ)/横浜桐畑教会/日独ユースミッション2023/イエズス会 社会司牧センター/浦安教会/日本キリスト教協議会女性委員会/日本基督教団九州教区北九州地区ヤスクニ人権委員会/日本キリスト教団樂鳴ときわ教会/日本自由メソヂスト教団/日本聖公会東京教区人権委員会/キリスト者平和ネット/日本基督教団四街道教会/新発寒教会/カトリック大分教区カリタス/日本聖公会神田キリスト教会/三次教会/日本キリスト教婦人矯風会新潟/日本カトリック難民移住移動者委員会/宮古聖ヤコブ教会/日本福音ルーテル函館教会/日本キリスト教会北海道中区ヤスクニ・社会問題委員会/蒔田教会/日本基督教改革派名古屋教会/日本キリスト教会夕張伝道所/日本バプテスト連盟大宮バプテスト教会/さよなら玄海原発の会・久留米/ヒロシマとメノナイトのともに集い合うセミナー/KMJ チャリティー/北海道外キ連/NCC 人権委員会参加者/日本聖公会仙台基督教会/日本福音ルーテルむさしの教会チャリティーコンサート/日本バプテスト同盟野並キリスト教会/日本バプテスト連盟大分キリスト教会/日本バプテスト同盟寝屋川キリスト教会/日本福音ルーテル八王子教会/患の丘長崎原爆ホーム/日本福音ルーテル宇部教会/日本キリスト教団月寒教会/日本福音ルーテル藤が丘教会/日本キリスト教会多摩地域教会/カトリック・カルメル修道会/日本バプテスト連盟日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会/日本聖公会東京教区聖マルコ教会/日本キリスト教会柏木教会/福岡女学院中学校/日ノ本学園高等学校/カナダ合同教会(UCC)/日本基督教団豊中教会/日本バプテスト連盟日本バプテスト大阪教会/日本バプテスト同盟関東学院教会/日本聖公会鹿児島復活教会/日本友会東京月会有志/日本キリスト教団下落合教会/下落合みどり幼稚園/日本福音ルーテル帯広教会/日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 CS/日本基督教団旭川豊岡教会/日本バプテスト連盟神戸バプテスト教会/日本バプテスト同盟駒込平和教会/日本バプテスト同盟瀬戸田バプテスト教会/日本基督教団横浜上原教会/日本バプテスト同盟高槻バプテスト教会/西南学院中学校高等学校後援会母の会/日本バプテスト同盟深川教会/日本基督教団市川三本松教会/日本バプテスト連盟日本バプテスト静岡キリスト教会/日本基督教団播磨赤穂教会/日本基督教団千葉教会/日本基督教団新潟教会/日本基督教団倉敷教会/日本基督教団廿日市教会/日本基督教団宇和島中町教会/日本バプテスト連盟八王子めじろ台バプテスト教会/西南学院中学校・高等学校/日本バプテスト同盟日本バプテスト厚木教会/外キ協全国協議会参加者有志/日本バプテスト連盟大分キリスト教会/日本基督教団阿倍野教会/日本バプテスト連盟徳島キリスト教会/学習会/アーメンアクション/日本基督教団原宿教会/日本バプテスト連盟浜浜バプテスト教会青年会/日本キリスト教団福知山教会/日本バプテスト連盟長住バプテスト教会/日本カトリック管区長協議会・日本女子修道会総長管区長会/在日大韓基督教会小倉教会/日本基督教団小倉日教会/奈良アーメンアクション/日本基督教団片町西教会/日本バプテスト連盟北大阪教会/在日大韓基督教会布施教会/アーメンアクション(北海道)/2・18集会会場カンパ/マリアの宣教者フランスコ修道会東京第三修道院/新潟ヘルプの会/日本基督教団室町教会/ほか2団体(匿名)/栗田英昭/岡田幸助/佐々木国夫/奈良いずみ/高橋礼子/井田泉/金成元/八木淳司/比企敦子/岸まち子/原科浩/秋葉正二/竹内正幸/今給黎真弓/田村義明/大倉一美/大曲由起子/岡田富美子/松橋敦子/北村恵子/石塚多美子/大内絵美/小谷野聖枝/薄井遥/秋山成子/日笠山古之/山内英子/渡邊さゆり/吉田雅尚/李省展/濱野敏子/渡辺輝夫/齊木登茂子/藤田美土里/横山陽子/潮江亜紀子/中村登紀子/三好祐輝/日高門/秋山道子/李明生/テイビット マッキントッシュ/河内理恵/洪秀任/金長壽/星山京子/飛田雄一/岡田薫/吉高叶/森山信三/山本二三子/古賀清敏/丹野信子/長谷川洋一/松村光司/藤田誠/中村証二/吉田絵理子/真下弥生/松本千恵/高橋愛/張征峰/細井留美/大西晴子/小池善/佐藤信行/川内裕子/斎藤幸義/森小百合/三吉小祈/古田真帆/飯高京子/元百合子/土井しのぶ/クボコウヘイ/石谷恵之/上西創造/長尾有起/フクイキエコ/虎川清子/川野安子/野副めぐみ/市川佐代子/李清一/本間勝/杉山佳奈子/鈴木律代/高本由美/刀祢館美也子/高谷幸/柴田朋子/鎌田治子/斎藤成二/山岸素子/栗田隆子/富田正樹/日高賢/松中みどり/安田真由子/松坂克世/竹内すなお/鈴木律代/申ヨソゾ/須藤伊知郎/野村篤子/高橋周也/前田以智子/樋口洋一/宮尾素子/中川弥生/白井捷子/人見富美子/ほか38名(匿名) ※複数回献金者のお名前の掲載も1回とさせていただきます。

**献金合計額:7,682,602円** **感謝**



### ここのか祈禱会



第6回目は、4月9日(火)

毎月9日 19:30～20:00、難民・移民基金につながるひとたちと共に、祈り・分かち合うひとときをオンライン(Zoom)でもちます。基金報告、発題や証し、参加者同士の分かち合いなど。どなたでもお気軽にご参加ください。(2023年11月～2024年7月9日まで)

●Zoom リンクはこちら  
ミーティング ID: 815 7644 8847  
パスコード: 798850

